Ｎｏ．２０９【２０１６年５月２０日配信】
津軽の碩学・三上強二（担当：村上）

先日、青森県近代文学館で開催中の「三上強二寄贈資料展―津軽の碩学（せきがく）が残したもの」を見学し、日曜講座「故・三上強二氏のエッセイを読む」を受講しました。三上強二氏（青森市出身、1928－2015）は青森県立図書館や県立郷土館に勤務し、県内外の文化人と交流を重ねたかたです。退職後は日本図書館協会顧問や青森ペンクラブ会長などを務め、市史編さん事業では『広報あおもり』の連載「あおもり今・昔」や『新青森市史』通史編第４巻の執筆にご協力いただきました。講演を聞いたことがあるというかたや新聞などに掲載されたエッセイを読んだことがあるというかたが多いのではないでしょうか。

日曜講座では三上氏が執筆したエッセイからさまざまな作家との交流について学ぶことができました。中でも印象に残ったのは青森市ゆかりの文学者・秋田雨雀氏（1883－1962）との交流です。秋田氏は黒石町（現黒石市）出身で明治 35 年（1902）に上京しましたが、昭和 19 年（1944）に孫を連れて黒石へ疎開し、その後新城村（現青森市新城）、青森市造道へと移りました。この時、秋田氏の孫が造道小学校に転入したことにより、造道小学校で教員を務めていた三上氏と秋田氏との交流が始まったそうです。

秋田雨雀の解説板（造道２丁目）

昭和 22 年、造道小学校の PTA を組織する際には、校務分掌でその業務を担当することになった三上氏が PTA 会長を秋田氏に依頼するという案をまとめ、その案が承認されて秋田氏が初代会長に就任しています。童話作家としても知られる秋田氏が小学校の PTA 会長を務めていたとは驚きました。

また、今回の展示では秋田氏の絶筆とされる色紙をみることができます。これまで秋田氏の絶筆は佐井村にある鳴海要吉（黒石市出身の歌人）の文学碑の碑文だといわれていました。秋田氏が碑の完成前に亡くなったために碑文が絶筆と考えられていたのですが、三上氏が所蔵していた色紙はその内容からこの碑文の後に書かれたものであり、現在はこちらが本当の絶筆とされているそうです（「県立図書館だより」第 21 号、平成 27 年２月）。

※今回の内容は三上強二『訪爐庵雑記』（平成３年　私家版）、『文芸あおもり』第 145 号（平成 10 年　青森県文芸協会）、『創立百周年記念誌　つくりみち』（昭和 53 年　青森市立造道小学校）などを参考にしました。